

やつおもて

第19号 (2018年4月)
編集発行：和田公民館
協力：公民館運営推進委員
電話：(45-1918)
eメール：wada-k@ph-hamada.jp

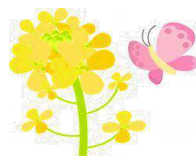


～和田地区いろいろ見て歩く記～

あかりをつけましょ
ぼんぼりに～



おはなをあげましょ
もものはな～



暖かさにつられてお雛様の顔が浮かんでくるようになりました。昨年皆さんのお蔭でたくさんの人形を展示して楽しんでもらうことができました。今年も1年ぶりにお雛様達と出会うのが楽しみです。皆さん、どうぞ会いに来てくださいね！（つぬ）

【和田の歴史コーナー】 和田地区の神社紹介⑤です。

【杵市山霊社（きしやまれいしゃ）】

◆鎮座地・・・和田八幡宮前

◆祭 神・・・畠山重豊・重俊 畠山重織 畠山重久・重信

◆由 緒・・・畠山新左衛門重豊は、因幡国（鳥取県）大崎城により1万石を領していたが、その子新左衛門重俊の時に落城して討死した。



その子畠山茂左衛門重久は、因幡国鹿野城主 亀井武蔵守の家臣になり、元和3年津和野に来た。しかし、何か事情があって武士をやめ、那賀郡追原村字大久保に移り谷尾と姓を改めて百姓になった。その子重信の時に和田に移り住んだ。嫡男谷尾茂右衛門重織の時に、佐伯源次郎に代わって和田村庄屋になった。

重織は敬神崇仏の念厚く、また鋭意産業の振興と民生の安定に努力した。その子儀兵衛重常が庄屋を務めていた時、重織の霊を杵市山神社としてまつた。その後、1759年8月重織を主祭神をし、重俊、重豊、重久、重信の四柱をも併せまつり、毎年2月18日を祭日と決めた。1820年再建の棟札によると、重織を「杵市山木霊社と祭らば、神社仏閣、町中の守護神たらん」というので、祭ったのだという。願主、社地持主の久保田権兵衛父子と、谷尾の末孫秀見、重定であった。（現社殿は、谷尾の末孫、畠山平吉の建てたものである）（旭町誌上巻より抜粋）



和田八幡宮参道の左側に位置し、現在は再建されて、杵市山神社と戎神社となっています。

うれしいね やさしい言葉 貰えたら

★続いては和田地区に伝わる伝説のコーナーです



戸川の悲恋



弥治右衛門には一人の娘がいた。それはそれは素直な娘で不平不満も言わないよくできた娘だった。

春の陽が山かげにゆっくりと沈んで家々の灯りがポツリポツリとつき始めると、もお、あたりは夜の気配に包まれていく。晴れた空に月はなく星が瞬き始めた。

「オーイ、何やっているんだ、早く家に入れ！」囲炉裏端で地酒に酔った弥治右衛門の声。「ハ、はい」返事をしながら西空を仰ぎ娘は思案顔だ・・（あの人、今夜も来てくれるかしら・・？）そう思いながらしぶしぶ家に入って来た。

「暗くなるというのに何をしているんだ」母親は只黙って土間で洗い物をしていたが「あの娘も年頃だから」とポツンと言う。「バカなこと言うんじゃない！」弥治右衛門は烈火のごとく怒った。「わしの目の黒いうちは勝手なことはさせんぞ！しっかりした婿をあてがって家の跡継ぎにしなきゃならんのだ！」そんな話を父親から聞くたびに娘は悲しい顔をするのだった。

母も頑固な父を知っていて何も言えなかった。

夕餉も済みやがて隣の部屋の灯りが消えて弥治右衛門のイビキが聞こえてきた。それを待っていたかのように娘はぬき足で家を飛び出し山道をウサギのように走って行く。山かげの木陰に若者が待っていた。娘のしなやかな体は何の躊躇もなくその胸に飛び込んだ。空には満天の星が降るように瞬いていた・・

こんな夢のような日は長く続かなかった。只でさえ口うるさい村人のこと、やがてこの二人の件は噂になり弥治右衛門の耳に入ってしまった。相手を知った弥治右衛門は男の家に怒鳴り込んだ。そして、男の承知で二人の恋は終わった・・（男はかなわぬ恋と諦めたのだった。）

それから幾日経ったろう・・娘は重い足を引きずって庄司峠のほうに歩いていく。

やっと暖かい春が訪れて桜が咲いたというのに、身も心も氷つくように寒かった。どこをどう歩いたのだろう。登り着いた山の上にも桜の花が咲き乱れ春の陽にキラキラ輝きながら散っていく・・そしてそれが当然の様に娘もその下の深い淵に

落ちていった。（文・絵 佐々岡健次）



ベンソン陽子の海外便り 第7回



人種様々な国、アメリカ



アメリカに住んでいて感じるのは、人種や文化の違う人々が世界中から来ていて、いろんな経験ができるなあ、ということです。特に大都市では、世界各国の食べ物や音楽、絵画や文学など様々な文化に触れることができます。

私たちの住むアトランタは大都市ですが、南部にあるので東海岸や西海岸の大都市とはまた違った雰囲気になっています。南部は保守的なのでキリスト教を信じる人が多く、人種もそこまで混ざっていません。



ハイチの食べ物です。彼らもお米をたくさん食べます。

私たちが塚崎家の姉妹は初めずっと西海岸に住んでいたの、今こうして3人とも南部に住み、文化の違いに驚いているところです。同時にアメリカは大きいんだなあとも実感します。私の住むジョージア州や妹が住むフロリダ州はアイランド（カリブ海の島々）からの移民が多いので、様々な



ジャマイカのジャークチキンです。辛めの味です。



ジョージア・フロリダ州とカリブ海の位置関係です。

トロピカルな食べ物が食べられます。皆さんもこちらに来られる際はいろんな国の食べ物に挑戦してみてくださいね！（文・写真 ベンソン塚崎陽子）

公民館からのお知らせ

★敬老乗車券出張販売の予定

平成30年4月13日（金）10:30～11:30

★2018ぐるっと金城と旭の雛めぐり

平成30年3月31日～4月1日 9時～16時

皆様のご協力でたくさんの人形が集まりました。

どうぞ見に来てください！



新電力についてご存知ですか？（新電力会社への乗り換えについて） 電気の話 No.4

2016年4月より電力自由化になり、一般家庭、小規模店舗まで拡大されることになりました。サービスや価格を基に消費者が、電力会社を選択することができるようになりました。中国電力エリアでは20社の電力会社が、料金プラン等を紹介していますので最適な電力会社を活用されたいと思います。



新電力に乗り換える最大のメリットは、電気料金が安くなることです。ただし、1人暮らし・オール電化の世帯。この二つの条件に当てはまる場合は、特に注意が必要です。よく試算したうえで乗り換えてください。（高くなる可能性もあります！）

再生可能なエネルギーを中心とした「エコ」な電気や、地元で作られた電気を売りにしている新電力会社も多いです。そうした電気を使うことができます。

「再生可能エネルギー100%」というプランを選ぶこともできますし、CO2排出量が大手より90%近く少ない会社もあります。意外と料金の安さと両立している新電力も多いので環境負荷も比べてみて下さい。



次は

～つぬちゃんのこんなのやりましたコーナー～



2月27日旭小4年生の総合学習で「旭の自慢を紹介しよう」の授業がありました。これは、「ゲストティーチャー」（地域の人に来てもらい教えてもらう）による授業で、和田地区からは和田町の今田康博さんが「和田桃」の話をされました。今田さんは、和田で桃を作り始めたきっかけや桃づくりの手順などを写真や桃の木の枝などを使って、わかりやすく話をされていました。子供さんも一度は「和田桃」を食べたことがあるのではないかと思います。今年は桃の花を見たり店頭の桃を見る目が代わっていると嬉しいです。



あとがき

2月17日（土）県大交流センターにおいて人づくり郷づくり実行委員会の主催で「人づくり郷づくり交流会」が開催されました。その中で先進地事例として高知県南国市稲生（いなぶ）ふれあい館の取り組みが発表されました。発表の中では力強いリーダーとリーダーに協力する地域の人達の姿がありました。一人の力ではできなくても、みんなの力が合わさるとできることがたくさんあるのだと改めて思いを深めた一日でした。（美）